

A N N U A L R E P O R T 2 0 2 4

年 次 報 告 書



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

御手洗 富士夫

当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため1991年11月1日に設立され、以後、潤いのある豊かな社会の創造に向けて、様々な事業を行ってまいりました。

令和6（2024）年度は、主要事業である「コスモス国際賞」（第31回）の受賞者に、ケンブリッジ大学動物学科研究部長のウィリアム・サザーランド博士を選出いたしました。サザーランド博士は、「保全科学」のパイオニアとして、「エビデンスに基づいた保全」を提唱され、世界中の膨大な研究論文の情報を精査・集積し、誰もがエビデンスとして利用できるウェブサイトを構築されました。さらに、博士が主導されている「ホライズン・スキャニング」は、人類社会に重大な脅威となるさまざまな事象について、その予兆となる現象の抽出を行うもので、政策立案や生物多様性の保全戦略等に活用されています。

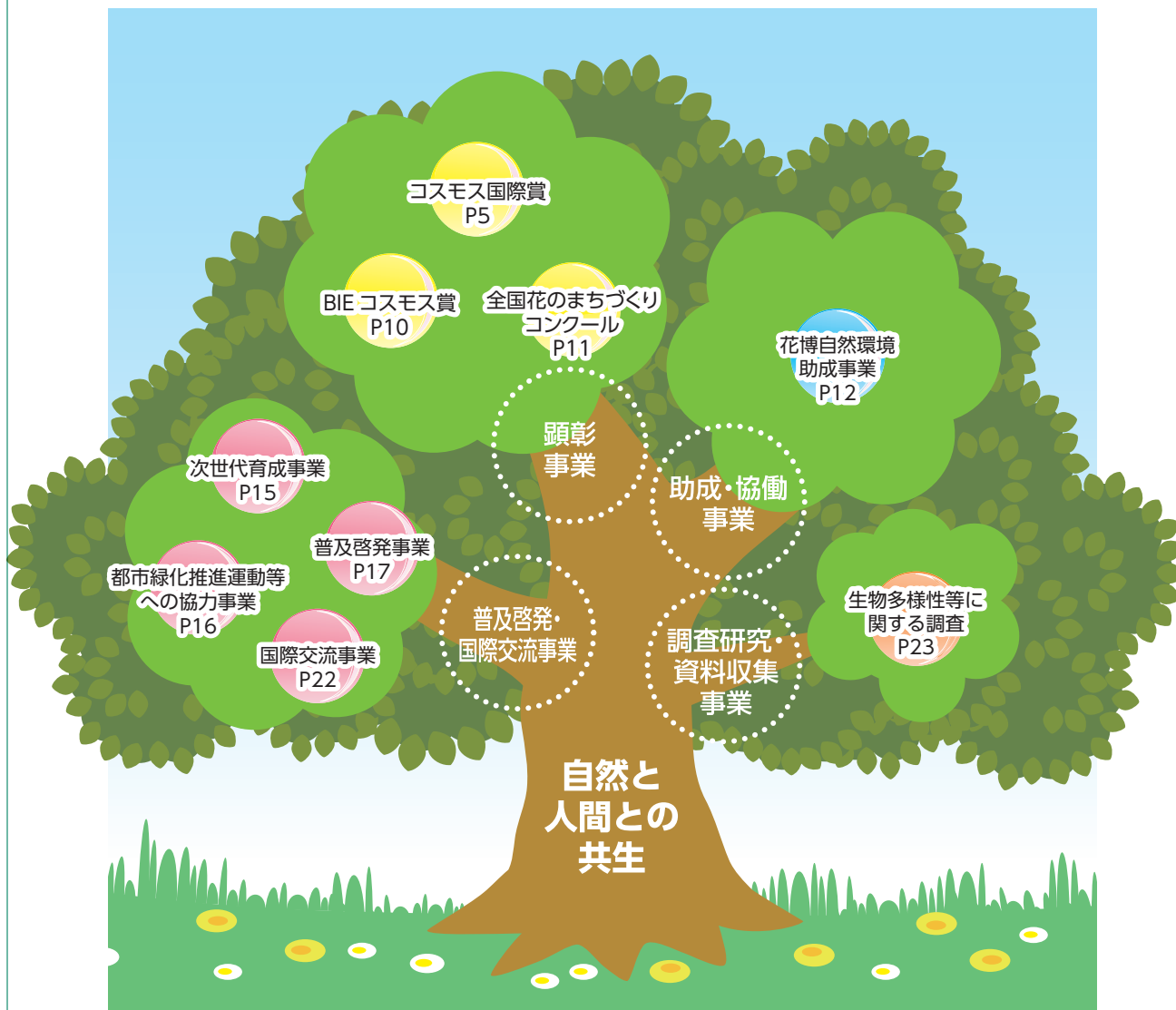
助成・協働事業、普及啓発・国際交流事業、調査研究・資料収集事業におきましても、有意義な成果をあげることができました。

今後とも、各事業をさらに充実、推進してまいりますので、皆様方の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

本書は、令和6（2024）年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いに存じます。

事業概要

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会（以下「花の万博」という。）は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であると考えられる。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

1. コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」という。)の2024年(第31回)受賞者の選考を次のとおり実施しました。

受賞者の選考等 コスモス賞委員会(以下「賞委員会」という。)及びコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」という。)を設置し、次の選考作業を行いました。

＜2024年(第31回)受賞者の選考・決定等＞

- ・第1回、第2回選考委員会(令和6年5月7日、5月13日)
- ・第3回選考委員会(令和6年6月24日)
- ・第2回賞委員会(令和6年6月24日)

2024年受賞候補者にウィリアム・ジェームズ・サザーランド博士(ケンブリッジ大学動物学科研究部長 セント・キャサリンス・カレッジ名誉フェロー)が選定されました。

- ・第122回理事会(令和6年7月17日)

賞委員長より選考の経緯及び結果が報告され、受賞者として決定しました。

また、同日午後、国内外の報道機関に対して記者発表等を実施しました。



2024年(第31回)コスモス国際賞受賞者
ウィリアム・ジェームズ・サザーランド博士
(ケンブリッジ大学動物学科研究部長 セント・キャサリンス・カレッジ名誉フェロー)
「エビデンスに基づいた保全」を提唱し、世界中の膨大な研究論文より情報を集積したウェブサイトを構築する等、生物多様性保全のあり方に革新をもたらした。

2024年 (第31回) コスモス国際賞 授賞式等の開催

国内外からの賓客及び招待者約380名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日 時：令和6年11月12日(火)午後3時～5時

場 所：住友生命いすみホール(大阪市中央区)

出席者：約380名

次 第：主催者紹介

来賓紹介

キャロリン・デービッドソン在大阪英国総領事館総領事、相本浩志農林水産省近畿農政局局長、鎌原宜文国土交通省大臣官房審議官、森岡武一大阪府副知事、春木崇大阪市建設局理事

主催者挨拶

授賞理由及び受賞者の紹介

賞状、賞金目録、

メダル贈呈

来賓祝辞

石破茂内閣総理大臣

受賞者挨拶

祝賀演奏



祝賀会

日 時：令和6年11月12日(火) 午後5時15分～7時

場 所：ホテルニューオータニ大阪 2階「鳳凰Ⅰ」

出席者：約100名



2024年度事業実績

顕彰事業

2024年 コスモス国際賞 受賞記念講演会

コスモス国際賞の関連行事として、2024年受賞者ウィリアム・ジェームズ・サザーランド博士による講演会を開催しました。初めに池谷和信コスモス国際賞選考専門委員会委員長による受賞者紹介の後、サザーランド博士による受賞記念講演を行いました。次の対談では、宮下直博士によるコーディネートのもと、受賞者サザーランド博士と石濱史子博士のセッションおよび聴講者との質疑応答が行われました。

日時：令和6年11月16日(土) 午後1時～3時

場所：東京大学伊藤謝恩ホール(東京都文京区)、オンライン(Zoomウェビナー)

参加者数：現地参加約200名、オンライン参加300名

後援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、ブリティッシュ・カウンシル、東京都教育委員会、生物科学学会連合、日本生態学会、日本生物教育学会、環境科学会

内容(敬称略)：

- ・受賞者紹介
池谷和信(コスモス国際賞選考専門委員会委員長、国立民族学博物館名誉教授)
- ・受賞記念講演「効果的な環境保全施策と実践のために」
ウィリアム・ジェームズ・サザーランド(2024年コスモス国際賞受賞者)
- ・対談

対談者：ウィリアム・ジェームズ・サザーランド

石濱史子(国立環境研究所 生物多様性領域 生物多様性評価・予測研究室 主幹研究員)

コーディネーター：宮下直(コスモス国際賞選考専門委員会委員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)



2025年 (第32回) コスモス国際賞 選考

2025年(第32回)コスモス国際賞の実施に向けて、令和7年2月14日に第1回賞委員会を開催し、国内外約1,900名の推薦人に対し、推薦依頼を送付しました。

コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年

ギリアン・プランス 卿

Sir. Ghilleen Prance



英国・王立キュー植物園園長

南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究を主導し、地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱した他、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に尽力した。

1994年(第2回) 平成6年

ジャック・フランソワ・バロー
(物故)

Dr. Jacques Francois Barrau
(Deceased)



仏国・パリ国立自然史博物館教授

太平洋の島々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年

吉良龍夫
(物故)

Dr. Tatuo Kira
(Deceased)



日本・大阪市立大学名誉教授

光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年

ジョージ・ビールズ・シャラー

Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長

40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究し、「マウンテンゴリラ生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年

リチャード・ドーキンス

Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授

1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表し、生物の進化について新しい見解を提示した。

1998年(第6回) 平成10年

ジャレド・メイスン・ダイヤモンド

Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授

医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年

呉 征鎰(ウー・チェン・イー)
(物故)

Dr. Wu Zheng-Yi
(Deceased)



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長

中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行した。

2000年(第8回) 平成12年

デービッド・アッテンボロー卿

Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー

野生生物のドキュメント映像のパイオニアとして、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年

アン・ウィストン・スパーン

Prof. Anne Whiston Spirn



米国・マサチューセッツ工科大学教授

都市と自然は対立するものでなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年

チャールズ・ダーウィン研究所

The Charles Darwin Research Station



エクアドル

ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。

2003年(第11回) 平成15年
ピーター・ハミルトン・レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長
生物多様性の保全を先駆的に行い、地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年
フーリャ・カラビアス・リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年
ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を収めた。

2006年(第14回) 平成18年
ラマン・スクマル
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年
ジョージナ・メアリー・メイス
(物故)
Dr. Georgina Mary Mace
(Deceased)



英国・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し科学的な基準を立案すること、および「レッドリスト」の作成において指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年
ファン・グエン・ホン
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009(第17回) 平成21年
グレッチェン・カーラ・デイリー
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年
エステラ・ベルゲレ・レオポルド
(物故)
Dr. Estella Bergere Leopold II
(Deceased)



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授
花粉学者であり自然保護論者として、博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年
海洋生物センサス科学推進委員会
The Scientific Steering Committee of
the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年
エドワード・オズボーン・ウィルソン
(物故)
Dr. Edward Osborne Wilson
(Deceased)



米国・ハーバード大学名誉教授
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源等の研究に尽力した。

2013年(第21回) 平成25年
ロバート・トリート・ペイン
(物故)

Dr. Robert Treat Paine
(Deceased)



米国・ワシントン大学名誉教授

生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、「キーストーン種」という概念を提唱したことにより、生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回) 平成26年
フィリップ・デスコラ

Dr. Philippe Descola



仏国・コレージュ・ド・フランス教授

南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とその自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

2015年(第23回) 平成27年
ヨハン・ロックストローム

Dr. Johan Rockström



スウェーデン・ストックホルム・レジリエンス・センター所長

人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうるとし、「プラネタリーバウンダリー」を把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるということを示した。

2016年(第24回) 平成28年
岩槻 邦男

Dr. Kunio Iwatsuki



日本・東京大学名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長

地球に存在する多様な生物の相互関係を統合的に解明する研究手法の構築により、シダ類をはじめとする植物系統分類学を発展させ、さらにアジアを中心とする生物多様性の保全に多大な貢献を果たした。

2017年(第25回) 平成29年
ジェーン・グドール

Dr. Jane Goodall



英国・ジェーン・グドール・インスティテュート創設者

長期的な視点に立った野生チンパンジーの研究を行い、さらにチンパンジーが住む森を保全するための植林活動、現地の住民向けの教育プロジェクト、世界中の若者のための環境教育プログラム「ルーツアンドシューツ」を行った。

2018年(第26回) 平成30年
オギュスタン・ベルク

Dr. Augustin Berque



仏国・フランス国立社会科学高等研究院教授

和辻哲郎の著作「風土」から大きな影響を受け、風土概念をさらに拡充、深化、発展させ、「風土学(mésologie)」と名づけられる新たな学問領域を切り拓き、自然にも主体性があるという「自然の主体性論」を提唱した。

2019年(第27回) 令和元年
スチュアート・L・ピム

Dr. Stuart L. Pimm



米国・デューク大学教授

地球上の生物の食物網の複雑さや種の絶滅速度等についての理論を提唱し、地球規模の生物多様性に関する政策などに大きな影響を与えると共に、生物保全活動を実践する団体を支援した。

2021年(第28回) 令和3年
ピーター・ベルウッド

Dr. Peter Bellwood



英国および豪・オーストラリア国立大学名誉教授

世界的な視野で農耕の拡散を研究し、考古学、言語学、人類生物学の学際的研究による「初期農耕拡散仮説」を提唱し、農耕の起源と初期農耕民の移動・拡散過程を明らかにした。

2022年(第29回) 令和4年
フェリシア・キーシング

Dr. Felicia Keesing



米国・バード大学教授

生物多様性と人獣共通感染症病原体との関係を、実践的な調査研究によって明らかにし、ポストコロナ時代における自然と人間とのあり方に科学的な示唆を与えた。

2023年(第30回) 令和5年
クリスティン・シュレイダー=フレシェット

Dr. Kristin Shrader-Frechette



米国・ノートルダム大学オニール家講座名誉教授

環境問題を考察する際に定量的リスク評価に基づく「環境正義」の概念が重要であることを提唱し、現在の環境問題に対する姿勢に警鐘を鳴らした。

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響によりコスモス国際賞の実施を中止した。

顕彰事業

委員会

コスモス国際賞委員会 令和7年3月31日現在(50音順)

委員長	山 極 壽 一	総合地球環境学研究所所長
副委員長	中 西 友 子	東京大学名誉教授
委員	秋 道 智 彌	山梨県立富士山世界遺産センター所長
委員	浅 島 誠	帝京大学特任教授
委員	池 内 了	総合研究大学院大学名誉教授
委員	池 谷 和 信	国立民族学博物館名誉教授
委員	白 山 義 久	京都大学名誉教授
委員	西 澤 直 子	石川県立大学学長
委員	林 良 博	東京大学名誉教授
委員	横 張 真	東京大学総括プロジェクト機構特任教授
委員	鷺谷いづみ	東京大学名誉教授
委員	和田英太郎	京都大学名誉教授
顧問	岩 槻 邦 男	東京大学名誉教授
顧問	尾 池 和 夫	京都大学名誉教授
顧問	岸 本 忠 三	大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
顧問	中 村 桂 子	JT生命誌研究館名誉館長

コスモス国際賞選考委員会 令和7年3月31日現在(50音順)

委員長	池 谷 和 信	国立民族学博物館名誉教授
副委員長	佐 倉 統	東京大学大学院情報学環教授
委員	沖 大 幹	東京大学大学院工学系研究科教授
委員	モンテ・カセム	国際教養大学理事長兼学長
委員	亀 山 康 子	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
委員	深町加津枝	京都大学地球環境学学准教授
委員	シテファ・ホーア	中央大学理工学部人間総合理工学科教授
委員	宮 下 直	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
委員	湯 本 貴 和	京都大学名誉教授
委員	横 山 潤	山形大学理学部教授

2. BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE（博覧会国際事務局：本部パリ）と当該博覧会協会と三者で「BIEコスモス賞」を実施しています。
令和6年度は、「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」での実施に向けて、受賞候補団体の公募を実施し、61件の応募の中から受賞候補10団体の選考を行いました。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画しました。

第34回 (2024年) 全国花の まちづくり コンクール

主 催：花のまちづくりコンクール推進協議会
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)
入賞/応募数：48点/605点

表 彰 式
開 催 日：令和6年10月31日(木)
場 所：法曹会館(東京都千代田区)

農林水産大臣賞



三島市東大場花の会(静岡県三島市)



特定非営利活動法人田原菜の花エコネット
ワーク(愛知県田原市)

文部科学大臣賞



五霞町立五霞中学校(茨城県五霞町)

国土交通大臣賞



佐野 崇志照・恵美子(静岡県浜松市)



南大塚都電沿線協議会(東京都豊島区)

第30回 全国花の まちづくり 小松大会

主 催：全国花のまちづくり小松大会実行委員会、花の
まちづくりコンクール推進協議会、小松市
開 催 日：令和6年5月25日(土)・26日(日)
場 所：石川県小松市團十郎芸術劇場うらら



助成・協働
事業

花博自然環境助成事業

花の万博の理念の継承発展・普及啓発につながる調査研究や活動を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、助成事業を実施しています。

本事業は、平成16年度より一般公募助成として開始したもので、これまで500件余の団体を支援してきました。

令和6年度
助成事業

令和6年度は24件の事業に助成しました。

【調査研究】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要
久保川イーハートープ自然再生協議会	久保川イーハートープ世界生物相調査と目録作成、発表会	岩手県	成立前の2007年から「久保川イーハートープ世界」(久保川上流約10km)において都市大学院の研究者と共に、維管束植物、トンボ類、水生昆虫類、鳥類等の調査を実施。その総仕上げの調査を集中的に行ってリスト(目録)を作成し、フォーラム(発表会)を開催して当該地域の生物多様性の高さを発信しました。
日台里山交流会議	日台里山イノベーションの研究(その2)	京都府	「里山とともに生きる社会」の在り方を探りました。台湾で「永續農村」「里山再生」の地域づくりを実践するNPO、大学人、環境政策担当者を関西地方に招き、日本の里山・農山村の現状、30by30目標の自然共生サイトを現地調査し、シンポジウムを開催し里山と共生する社会の姿を探りました。
南阿蘇ランドアートクラブ	「ランドスケープ農業」推進のための植生・土壌調査	熊本県	世界農業遺産に認定されている(=世界から価値を認められている)南阿蘇村で、ランドスケープ(見た目だけでなく生態系や文化を含む概念。景観とも言われる)を構成している田畑、草原、森林等の植生・生態調査を行う。また、価値をさらに上げるための植栽や土壌改良実験(パイオ炭による炭素固定)も行いました。

【活動・行催事】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要
生駒山昆虫観察の会	親子ペアで行う生物豊かな森づくり	奈良県	冬季に森にて、落ち葉の集積場、朽木溜まり、池の泥だし等の里山的管理手法を行い、ハビタットを形成し、多様で生き物が豊かな森を親子参加型で整備するとともに、冬季の生き物観察を行いました。また、これにより夏の観察会の充実につなげました。
公益社団法人園芸文化協会	国際園芸博共創セミナー「園芸文化を育んだ花」	東京都	「2027年国際園芸博覧会」の開催を契機に、2027年国際博覧会協会と花緑団体、愛好団体が連携し、多くの人たちに私たちの暮らしや文化は花とともに育まれてきたことを伝え、花のある豊かな心身ともに健康な暮らしを未来につなげていくことを目的に、日本の園芸文化を育んだ花を題材としたセミナーを開催しました。
小高はなみちプロジェクトチーム	小高空き地ビオトープ計画	福島県	原発被災後空き地が大きく増加している南相馬市小高区において、地域の環境や生態系に目を向けてもらい、景観を改善し空間体験の質を向上させることを目的として、ビオトープとしての空き地再生に取り組みました。活動としては、地元住民と共同で進める施工会、生き物観察会、勉強会に取り組みました。
特定非営利活動法人京おとくに・街おこしネットワーク	「京都西山」緑の魅力発信整備計画	京都府	京都西山に位置する柳谷観音は平安時代開創の歴史あるお寺ですが、山奥で不便であり、多くの人が訪れることはありませんでした。私たちはこの自然の良さに魅力を感じ、17年前よりお寺を中心に陽光桜、アジサイ等の植樹を毎年続け、西山古道の整備活動と、5年前から新たに陽光桜苑を開発し、昨年より府道周辺の緑化事業も実施しました。
倉洲ヤマアジサイの会	休耕地を花と緑で埋め憩いの場所にする活動	群馬県	およそ1000㎡の休耕地に、花壇の間を散歩しながら楽しめる花壇作りをします。現地は高崎市内でも田園と住宅が混在する場所で、散歩する人も多くちょうど休める場所に畑があるのでみんなが楽しめる場所にしたいと思います。
特定非営利活動法人グラウンドワーク三島	世界・日本の宝「水の山・富士山」の湧水を調べよう!	静岡県	開発行為やオーバーユースによる湧水の減少や枯渇、水質悪化等の環境問題を抱える富士山麓の湧水地において、その生態調査や湧水地情報の可視化・発信、保全人材の育成をとおり、富士山麓の環境監視・保全体制をより強固なものとし、世界文化遺産に恥じない富士山の環境保全を図りました。
源氏藤袴会	京都自生種の藤袴を保全育成し環境保全活動を推進する	京都府	令和2年から絶滅寸前種の京都藤袴を保全育成してきました。成果は大きく令和2年度京都市から京の生きもの・文化協働再生プロジェクトの第24号認定 令和3年度は京都環境賞奨励賞で環境と調和した持続可能な社会への貢献が認知されました。
坂井市国際交流協会	ワールド・ガーデン	福井県	坂井市国際交流協会は発足後3年目になるが、地域の外国人住民との交流の場がなかなか持てないという悩みがありました。そこで、外国人住民を含む地域住民が気軽に集い、一緒に野菜や花を育てることで交流する「ワールド・ガーデン」を企画しました。

特定非営利活動法人里山再生と食の安全を考える会	里山から花とみどりあふれる地域づくり	茨城県	景観保全のため花とみどりあふれる地域づくりを目指し、畑周辺に花を植え、野菜の栽培・収穫体験を行い、収穫した野菜等を使って、食育を行いました。食育の一環として注目されている野菜等・ハーブを栽培しました。復興の一環として里山整備を行いました。
特定非営利活動法人自然環境ネットワーク射水市・ピオトープ協会	生物多様性保存型里山ピオトープの形成に関する事業	富山県	原生的自然は少ないが、里山的自然が多く残る射水市において生物多様性・生態系の理念を啓発し、地域在来の動植物・気象動植物・絶滅危惧種の保存を図るとともに過疎化の進行による里山衰退を防ぎ地域の活性化を図りました。本来射水丘陵に生息していたホクリクサンショウウオ(環境省レッドデータリストⅠ類B)等の保存を図りました。
つくし野ピオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を体験的に学ぶ環境学習活動	東京都	「命」をキーワードに、年間プログラムで身の回りの環境体験や作物づくりを通して、自然との共生を「体験的環境学習」として生物多様性・生態系サービス・SDGsに配慮し学びました。参加者は3歳児から小学校～大学生までの子どもと親が中心。地域住民主催で19年目の活動を継続・実施しました。
豊野ひまわり園事業実行委員会	ひまわりを活用した環境美化と花と緑の地域づくり	熊本県	町内の未耕作の畑を借り、ひまわりの花を栽培する事で、花を通してこの事業に関わる町民の横のつながりを深め、さらに地域の外からの人の流れを呼び込むことで、地域の環境美化と交流の場を創出しました。
公益社団法人日本植物園協会	日本の植物園ヘリテージを市民とつなぐ	東京都	「日本の植物園ヘリテージ」として、植物園の始まりとなった薬草園をテーマに、受け継がれていく歴史と文化を伝えるシンポジウムを開催しました。当会の創立60周年を祝うブレイイベントと位置づけ、官民の薬草園の紹介や各園の取り組みの紹介し、薬草園から未来に向けての提案を行いました。
庭じかん	花バスケットで住民が集う明るい景観の町中空間を作る	秋田県	地域住民と一緒に花や緑のハンギングバスケットを制作し、それらを地域のゴミステーションや公共施設、商店等の人が集う場所に設置しました。さらに地域住民が協力して管理することで花や緑のある明るい景観づくりや、ハンギングバスケットの花や緑の植物を介したコミュニケーションの機会を広げ、心豊かな生活につなげました。
特定非営利活動法人のとキリシマツツジの郷	日本の宝「のとキリシマツツジ」魅力発信事業	石川県	奥能登で初夏に深紅の花を咲かせる「のとキリシマツツジ」は、ナショナルコレクションの認定を受けた日本の宝です。島根県松江市で開かれる「温帯地域の花木・観賞樹木に関する国際シンポジウム」に盆栽仕立ての同ツツジと紹介パネル、能登町の小中学校入学式に盆栽を展示することで、この花の魅力を広く発信しました。
公益財団法人金沢子ども科学財団	里山の四季の自然を学ぼう	石川県	小学3年生から6年生までの児童を対象に、金沢市内近郊の里山「角間の里」を探検し、動植物等の観察活動等を通じて自然に対する興味関心を高めるとともに里山保全の必要性を学び、自然と人間の共生について考える機会を提供しました。
福興浜団	菜の花迷路一般開放と菜の花畑整備	福島県	東日本大震災による津波で全て流された南相馬市原町区萱浜地区に菜の花畑を造成し、そこに迷路を作りGW期間中に一般開放しました。菜の花迷路には親子連れからお年寄りまで、市内はもちろん県内外から多くの人に訪れてもらい、楽しみ、笑顔になってもらうとともに、津波被害を受けた地区の現在の様子を見て、知ってもらいました。
Mikke Garden 森のムッレ貝塚教室	「森のムッレ教育」から学ぶサステイナブル	大阪府	北欧生まれの自然環境教育プログラム「森のムッレ教育」は、生き物や環境への気遣い、思いやりの心を育むことを目的としています。子どもたちとエコロジーの基本を学ぶムッレ教室をはじめ、環境保全のためのイベントやワークショップ、学びの場づくりを展開していきました。
やしらの森公園協会	収穫祭	兵庫県	里山環境・景観を再現、保全し、提供するやしらの森公園における日々の活動、実施してきたプログラムを年に1度の集大成として表現する大型イベント企画です。スタッフや関連団体の力を合わせてガイドウォークや工作、たき火、公園産のおいしいご飯など楽しみ、学び、五感を使って森の魅力を体験して頂く1日を創造しました。
特定非営利活動法人LEAF26	「椿の路」とOECM共生活動を結ぶ地域支援事業	宮城県	地域や教育現場でのSDGsの理解は進んできているものの、気候変化が著しく、現状に順応できていない。私達のできる地域活動の在り方として、COP10NAGOYAで日本が呼び掛けたOECMの考えをベースとした、自然と人間の共生を楽しむ活動を身近な地域活動として展開しました。
竜ヶ井城山の会	竜ヶ井城跡地域でのヤマザクラ保全と山林整備活動	茨城県	筑波山の北側山麓にある竜ヶ井城跡周辺は、色々な歴史的遺産を持ち、平将門の乱の舞台です。今は荒廃した山道や山林にはヤマザクラなどの樹木が多くあり、人々を楽しませてきた。私たちはヤマザクラの植樹や山林整備活動を通して、こうした古の環境を蘇らせて整備しました。

助成・協働事業



日台里山交流会議



特定非営利活動法人京おとくに・街おこしネットワーク



倉渕ヤマアジサイの会



特定非営利活動法人グラウンドワーク三島



豊野ひまわり園事業実行委員会



特定非営利活動法人のとギリシマツツジの郷

委員会

助成事業審査委員会委員 令和6年6月現在(50音順)

- 委員長 林 孝 洋 元近畿大学農学部農業生産科学科教授
- 副委員長 橋 本 佳 延 兵庫県立人と自然の博物館主任研究員
- 委員 梶 木 典 子 神戸女子大学家政学部家政学科教授
- 委員 香 坂 玲 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
- 委員 田 中 晃 代 近畿大学総合社会学部総合社会学科教授
- 委員 永 田 萌 イラストレーター・絵本作家

令和7年度 助成対象の決定

令和7年度の助成事業を決定しました。

【公募】公募期間：令和6年7月16日(火)～8月26日(月)

【審査】審査期間：令和6年10月～令和7年2月

【決定】助成事業審査会の審査結果として、対象24件が理事長に答申され決定されました。また、この内容は第123回理事会にて報告しました。

高校生 Green Action 助成

校内および近隣地域における緑化や花壇づくり、花や緑に関わる文化の発展及び交流、自然保全等に寄与する活動を行う高校生の活動(部・同好会等)に対し、助成を実施しました。

【令和6年度助成実施校】

- 関西大学第一高等学校・中学校(生物部)、大阪府立港南造形高等学校(動物研究同好会)、
- 大阪府立布施北高等学校(園芸部)、大阪府立みどり清朋高等学校(地域貢献部)

普及啓発・
国際交流事業

1. 次世代育成事業

花の万博の理念継承発展のため、講師派遣型セミナーを実施しました。

小学校講師派遣

コスモスセミナー小学校講師派遣は、協会に関係する多くの科学者や知識人を小学校に派遣し、自然との関わり、自然やいのちの大切さ、ひいては地球環境の大切さを学習し「自然と人間との共生」をいう花の万博の理念の継承・発展に資することを目的としています。

令和6年度は令和5年度に引き続き、対面授業とオンライン授業の選択制とし、現地授業14校、オンライン授業1校の計15校で授業を行いました。

アンケート(一部)

- ・学校内では生み出せない刺激があり、子どもたちにとってとても良い。ありがとうございました。
- ・講師の先生の子供のひきつけ方がとても上手で、集中することが苦手な児童も目を輝かせながら話を聞いていました。ありがとうございました。
- ・とても分かりやすく楽しい内容で、子供たちは45分間とても楽しそうでした。パワーポイントの内容も興味をひくものばかりで非常に充実した時間になりました。ありがとうございました。
- ・ご専門の方が講師としてお話をしてくださるので、子供たちも関心をもって最後まで取り組めており、充実した内容でした。
- ・身近にある植物に目を向けるきっかけとなる内容でした。実物を使って授業してくださったのでどの子どもも楽しく参加できました。

● 実施日	● 実施校および参加者	● 授業形態	● テーマ	● 講師
令和6年6月13日	大阪市立巽小学校 6年生 71名	対面	砂漠の水がめスイカ	池谷 和信(国立民族学博物館名誉教授)
令和6年6月18日	堺市立庭代台小学校 3年生 47名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫(大阪公立大学教授)
令和6年6月25日	葛城市立當麻小学校 3年生 32名	対面	昆虫の生態・水生生物と川の環境	谷 幸三(一般社団法人淡水生物研究所理事)
令和6年6月27日	大阪市立東三国小学校 6年生 46名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
令和6年6月28日	大阪市立喜連西小学校 5年生 76名	対面	カタツムリの不思議な世界	河野 甲(かたつむりミュージアムラセン館代表)
令和6年7月4日	大阪市立墨江小学校 3年生 85名	対面	カタツムリの不思議な世界	河野 甲
令和6年7月8日	河内長野市立千代田小学校 4年生 122名	対面	昆虫の生態・水生生物と川の環境	谷 幸三
令和6年7月16日	大阪市立荻田北小学校 6年生 77名	対面	カタツムリの不思議な世界	河野 甲
令和6年8月29日	大阪市立矢田小学校 3-6年生 65名	対面	昆虫の生態・水生生物と川の環境	谷 幸三
令和6年9月5日	大阪市立大宮小学校 3年生 83名	オンライン	生き物と食べ物について	佐藤 洋一郎(ふじのくに地球環境史ミュージアム館長)
令和6年9月13日	東大阪市立弥刀東小学校 3年生 42名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎(天王寺動物園園長)
令和6年9月26日	大阪市立鶴見小学校 5年生 45名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎
令和6年12月2日	大阪市立高松小学校 4年生 81名	対面	植物のかたちとはたらき	渋谷 俊夫
令和6年12月6日	大阪市立新森小路小学校 5年生 99名	対面	砂漠の水がめスイカ	池谷 和信
令和6年12月10日	岸和田市立中央小学校 6年生 28名	対面	動物の命の不思議	長瀬 健二郎

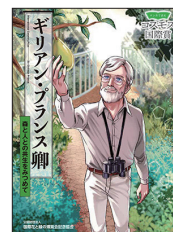


2024年度事業実績

普及啓発・ 国際交流事業

受賞者漫画読本

受賞者漫画読本は、若年層や普段科学や環境問題に関心の少ない層にもコスモス国際賞および受賞者の業績について学習する機会の拡充を図ることを目的としたもので、令和6年度はギリアン・フランス卿(1993年コスモス国際賞受賞者)、ピーター・H・レーブン博士(2003年コスモス国際賞受賞者)の読本を刊行しました。また、岩槻邦男博士(2016年コスモス国際賞受賞者)、ピーター・ベルウッド博士(2021年コスモス国際賞受賞者)から制作許諾を得て、資料の収集を行い、マンガシナリオ、ネームの作成を進めました。



©山下 茜



©えのきろうちょう

第2回 全国高校生 「地域の自然」 甲子園 (通称： ネイチャー甲子園)

ネイチャー甲子園は、全国の高校生が身近な自然や生きもの、それに関わりあって生きる人々を、動画撮影や調査によって紹介するコンテストで、自然や文化への関心、郷土愛の向上を目的とするものです。令和6年度は「動画クリエイティブ部門」「生きもの調査部門」の2部門で実施しました。

主催：当協会、(株)地域環境計画
協賛：キヤノン(株)
後援：文部科学省、環境省

実施期間：

エントリー期間：令和6年4月16日(火)～令和6年11月29日(金)

決勝大会：令和7年2月9日(日) 花博記念ホール(大阪市鶴見区)

両部門の応募数および上位入賞校(グループ名)

(1)動画クリエイティブ部門 応募53グループ

- ・グランプリ 名城大学附属高等学校(放送部ネイチャー班)
- ・準グランプリ 大阪府立港南造形高等学校(動物研究同好会)
- 長野県木曽青峰高等学校(里山同好会)

(2)生きもの調査部門 応募50グループ

・動物の部

1位：第一学院高等学校四日市キャンパス
(第一学院四日市キャンパス)

2位：近畿大学附属高等学校(近高生物班)

3位：佐賀県立致遠館高等学校(致遠館高校生物班)

・植物の部

1位：新潟県立羽茂高等学校(HAMOKO)

2位：沖縄工業高等専門学校(沖縄高専)

3位：愛知県立明和高等学校(明和)



審査員(動画クリエイティブ部門)

審査員長 前 迫 ゆ り 奈良佐保短期大学副学長

審査員 根 本 拓 哉 日本放送協会理事・大阪放送局長

審査員 井 田 徹 治 共同通信社編集委員

審査員 中 条 太 一 ネイチャービデオグラファー

2. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市緑化推進運動協力会に参画し、市民の都市緑化意識の高揚を目的に開催する「春季における都市緑化推進運動」(令和6年4月1日～6月30日)、「都市緑化月間」(令和6年10月1日～10月31日)、中に開催された「都市緑化キャンペーン2024」など、都市における緑の保全・創出や都市公園、街路樹の整備等を推進し、緑豊かな美しいまちづくりの展開に支援しました。また、令和6年10月25(金)に東京都港区の日本消防会館(ニッショーホール)で開催された「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会開催について、協力を行いました。



3. 普及啓発事業

花の万博が開催された大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し、実施しました。

おおさか都市 緑化フェア 2024

花と緑あふれる豊かなまちづくりを進め、都市緑化に関する府民意識の高揚と知識の普及を図ることを目的に開催されている本フェアに参画しました。

開催日：令和6年10月27日(日)

場 所：大阪府宮久宝寺緑地

来場者：約18,000名

主 催：当協会、大阪府、株式会社美交工業



みどりの まちづくり賞 (大阪ランドスケープ賞)

緑によるまちづくりや、市民の花やみどりに関する知識、技術力の向上を図ることを目的とした第13回みどりのまちづくり賞に参画し、花博記念協会会長賞等を授与しました。

募集期間：令和6年5月17日から7月19日

入賞／応募数：5点／13点

表彰式・講評会

開催日：令和7年1月27日(月) 午後2時～4時30分

場 所：エル・おおさか 南ホール(大阪市中央区)

来 場 者：約100名

主 催：当協会、大阪府、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部



花博記念協会会長賞：グランカサレ玉造

はならんまん 2024

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された本事業に参画しました。

開催日：令和6年11月3日(日・祝) ※11月2日(土)は悪天候により中止

場 所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)

来場者：約25,000名

主 催：当協会、大阪市



普及啓発・ 国際交流事業

第3回 自然と人間との 共生フォーラム ～見えない けど、 そこにいる、 菌～

3公益法人の協働により、フォーラムを開催いたしました。

第3回目となる今回は、(公社)日本植物園協会が幹事となり「菌」をテーマに行いました。

趣旨：菌類は分類的位置がはっきりしない時代が続きましたが、現在では独立した分類群として認識され、さらに動植物と密接に関連し、生物界に欠かせない生物として認知されています。見えない菌類の世界を通して、自然と人間との共生について考える場として実施しました。

日 時：令和7年2月20日(木) 午後2時～4時15分

※オンライン配信(Zoomウェビナー)により実施

主 催：(公社)日本植物園協会、(公社)日本動物園水族館協会、当協会

参加者：約350名

次 第：開会挨拶 日本植物園協会会長 西川綾子

基調講演

「菌類：見えないけど、そこにいる大切な生き物」

細矢 剛(筑波実験植物園園長・日本菌学会会長)

プレゼンテーション

「変形菌“菌”と呼ばれるアメーバー」

松本 淳(越前町立福井総合植物園園長・日本変形菌研究会事務局)

「希少植物を支えるキノコのちから」

末次健司(神戸大学大学院理学研究科生物学専攻)

「農業をするアリ ハキリアリ ～菌園と共に生きる～」

佐々木愛子(多摩動物公園 昆虫園飼育展示係)

パネルディスカッション

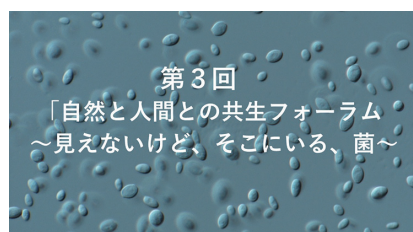
パネリスト 細矢 剛(筑波実験植物園園長・日本菌学会会長)

松本 淳(越前町立福井総合植物園園長・日本変形菌研究会事務局)

末次健司(神戸大学大学院理学研究科生物学専攻)

佐々木愛子(多摩動物公園昆虫園飼育展示係)

ファシリテーター 佐久間大輔(大阪市立自然史博物館学芸課長)



第1回
「人・自然・生命」
シンポジウム
～人にとって
緑とは何か、
なぜ花を
愛でるのか～

2027年に日本で37年ぶりの大国際園芸博覧会が横浜で開催されます。その機運喚起と「自然と人間との共生」の理念の浸透を図るため、4回シリーズの「人・自然・生命」シンポジウムを開催します。令和6年度はその第1回目を実施しました。

趣 旨：パンデミックによる行動抑制により、人は緑を求め公園に出て、ホームセンターでは花苗が売れました。人はなぜ緑を求めるのか、行動の原理と心身への効果は何か、花に何を思うのか。根源的な課題にアプローチします。

日 時：令和7年3月10日(月) 午後1時～3時30分

場 所：横浜市開港記念会館 講堂(横浜市中区)

主 催：「人・自然・生命」シンポジウム実行委員会
(当協会、(公社)2027年国際園芸博覧会協会 ほか)

後 援：農林水産省、国土交通省、環境省、神奈川県、横浜市

参加者：約200名

次 第：開会挨拶 河村正人 (公社)2027年国際園芸博覧会事務総長

趣旨説明 涌井史郎 GREEN×EXPO ラボ チェアパーソン

基調講演 岩槻邦男 東京大学名誉教授

パネルディスカッション

コーディネーター 涌井史郎 (GREEN×EXPO ラボ チェアパーソン)

パネリスト 井上英明((株)パーク・コーポレーション代表取締役)

田中優子(法政大学前総長)

望月寛子(農研機構 健康・感覚機能グループ長補佐)

吉岡更紗(染織家)

閉会挨拶 片山博昭 当協会専務理事



万博の桜
2025

2025年大阪・関西万博への期待感や機運を高め、関西の緑化環境の向上をめざす「万博の桜2025」プロジェクトにつきまして令和2年1月から実行委員会事務局を務めてきました。

令和6年度も引き続き寄附金の収納や事業の広報を行った結果、令和6年10月までに、延べ3,000人を越える方からのご寄附により、2025本の桜の植樹に必要となる191,840,000円の目標額を達成しました。これに伴い、令和6年10月17日をもって、寄附の受付を終了するとともに、寄附者の皆様へ植樹場所を通知しました。



大阪・関西万博
への協力

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)協力事業として、会場整備参加(木製ベンチ260基)を行いました。



普及啓発・
国際交流事業

4. その他の普及啓発

花の万博の理念の普及・啓発のため、各事業の広報等を実施しました。また、各種団体が実施する行催事等に協賛、後援等を行いました。

後援等一覧

● 催 事 名(開催時期)	● 開 催 場 所	● 主 催	● 名義等
令和6年度大阪府立花の文化園「幼児・小中学生花の絵画展」(R7.1.5～2.2)	大阪府立花の文化園イベントホール(大阪府河内長野市)	大阪府、大阪府立花の文化園	後援 会長賞
第21回2024周防町通り「はなまつり」(R6.5.1～5.31)	周防町通り(堺筋～御堂筋間)と大阪府立南小学校(大阪市中央区)	ヨーロッパ村周防町通り商店会	後援
緑の講演会「次代に繋ぐ吉野山の桜景観」(R6.6.29)	京都経済センター 6F(京都市下京区)WEB開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援
水都おおさか森林(もり)の市2024(R6.10.27)	桜ノ宮合同庁舎・毛馬桜之宮公園周辺(大阪市北区)	水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会	後援
第79回日本おもと名品展(R6.11.23～11.24)	上野グリーンクラブ(東京都台東区)	日本おもと協会	後援 会長賞
令和6年度「都市緑化月間」(R6.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
令和6年度第44回伝統庭技研修会(R6.11.28～11.29)	梅小路公園緑の館(京都市下京区)	一般財団法人日本造園修景協会	後援
小品盆栽フェア第33回春雅展(R7.3.28～3.30)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール(大阪市鶴見区)	公益社団法人全日本小品盆栽協会	後援 会長賞
私のランドスケープ(R7.2.15)	キャンパスプラザ京都 第6講習室(京都市下京区)WEB開催	一般財団法人日本造園修景協会京都府支部	後援



令和6年度大阪府立花の文化園「幼児・小中学生花の絵画展」



第79回日本おもと名品展



水都おおさか森林の市2024

ホームページ
YouTube等の
運営・管理

感染症により縮小・中止した事業に替わる協会の新しい次世代育成事業である「花博チャンネル」は、次の2件の講義および自然と人間との共生フォーラム等を動画サイトに掲載しました。

YouTube花博チャンネル

【青少年向け環境授業】

「砂漠の水がめスイカ」池谷和信(国立民族学博物館名誉教授)

「里山ってどんなもの？」稲本雄太(けいはんな記念公園管理事務所景観演出部)

【第2回全国高校生「地域の自然」甲子園(通称：ネイチャー甲子園)】

【第3回自然と人間との共生フォーラム】



コスモス国際賞 の広報

2024年(第31回)受賞者についての業績や授賞理由などをまとめたパンフレット(900部)、およびパンフレットの内容に加え関連行事の内容をまとめた報告書を作製(600部)し関係者に配付しました。
また、コスモス国際賞受賞者の研究、業績をより幅広い世代に普及するため、令和6年度制作の受賞者漫画読本をコスモス国際賞授賞式や当協会主催行事で配布しました。



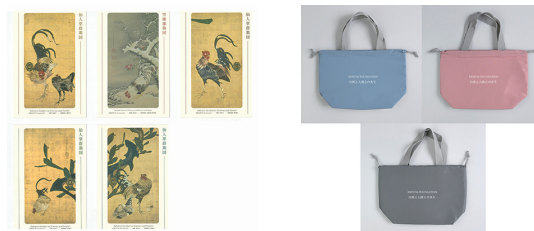
情報誌の刊行

「自然と人間との共生」に関わる話題を発信する協会情報誌『KOSMOS』(変形A5版24頁2,000部)の14号、15号を刊行しました。両号は「衣・食・住」シリーズの「住」、「二十四節気と自然観」をテーマとし、「自然科学」「人文・社会科学」からの視点による、コスモス国際賞受賞者や協会関係学者等の対談、コラムを掲載しました。



ノベルティ

中期計画の広報戦略に基づく、協会名の浸透とブランディングを目的に、新たなノベルティを製作しました。



情報の提供

今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者、花の万博紹介媒体に対し、情報、写真の提供を行いました。

海外・国・地方自治体等	9件
企業・個人	14件

2024年度事業実績

普及啓発・国際交流事業

その他広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成、配付及びホームページやSNSに掲載しました。



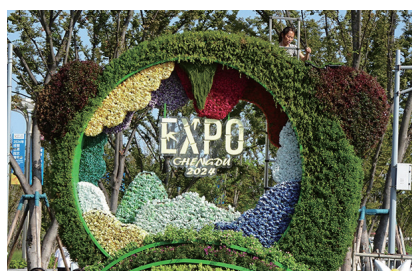
ネイチャー甲子園X

facebook

5. 国際交流事業

国際園芸博覧会視察

今後の国際園芸博覧会出展協力事業に資するため、令和6年4月26日から10月28日まで中国・成都で開催された「2024年成都世界園芸博覧会」を視察しました。



ウクライナフラワープレゼント

ウクライナ学生支援会事務局のご協力のもと、ウクライナの戦禍を逃れ日本へ避難・留学されてきた学生を対象に「花とみどりのギフト券」を贈る本事業は、ウクライナ独立記念日とクリスマスにあわせ、次のとおり行いました。

- ・ウクライナ独立記念日(14校、48名を対象、1人当たり4千円のギフト券)
- ・クリスマス(11校、41名を対象、1人当たり4千円のギフト券)

コスモス国際賞等協力協議

コスモス国際賞、BIEコスモス賞に係る協議をWAZA(世界動物園・水族館協会)、ISC(国際科学会議)、BIE(博覧会国際事務局)と行いました。

2024年度事業実績

調査研究・ 資料収集事業

第5回 温帯地域の 花木・鑑賞樹木 に関する 国際 シンポジウム

「温帯地域の花木・鑑賞樹木に関する国際シンポジウム」(International Symposium on Woody Ornamentals of the Temperate Zone, WOTZ2024)の第5回大会を共催し、日本の花木にまつわる研究の国際的な発信の場をサポートしました。

開催期間：令和6年4月21日(月)～4月25日(金)

場 所：松江テルサ(島根県松江市)

主 催：WOTZ2024実行委員会

共 催：当協会、園芸学会、島根大学、農業・食品産業技術総合研究機構

参加国等：13カ国、172名

発表演題数：口頭発表(基調講演等を含む)41題、ポスター発表30題



参加者による壇上記念写真撮影



出展されたノトギリシマツツジ

共生ツアー 人と山の 暮らしを探る in吉野

奈良県吉野町の林業をテーマに、自然と結びついた生業、文化、景観等の成り立ちについて、現地を訪問するエクスカッションを通じて、体験、学習するツアーを実施しました。

開催日：令和6年9月7日(土)

参加者：19名

場 所：奈良県吉野町

講 師：中井章太(7代目山守、中神木材代表)
石橋輝一(吉野中央木材(株)専務取締役)

行 程：山守ツアー(樹木皮剥ぎ体験、ロープワーク体験)、製材所視察、
吉野杉の家視察



SDGs冊子

未来へ向けて、多くの主体と協働し「SDGsの輪」を広げていきたいという思いから、昨年度に発行した冊子「花博記念協会のSDGs」を、環境保全活動や環境ビジネス等に取り組む企業等に配付しました。



組織運営

理事会 令和6年度開催実績

	● 開催日	● 場 所	● 議 題
第121回理事会	令和6年 6月12日(水)	ステーションコンファ レンス東京(東京都千代 田区)	令和5年度事業報告及び収支決算について 定時評議員会の招集について 評議員会に提出する評議員候補者(案)について
第122回理事会	令和6年 7月17日(水)	ステーションコンファ レンス東京(東京都千代 田区)	特定資産の取崩しについて 臨時評議員会の招集について 2024年(第31回)コスモス国際賞受賞者の決定について
第123回理事会	令和7年 3月18日(火)	ステーションコンファ レンス東京(東京都千代 田区)	特定資産の取崩しについて 令和7年度資産運用方針書について 令和7年度事業計画及び収支予算について 特定資産の保有について 特定費用準備資金の保有について コスモス国際賞委員会委員長及び委員の選任について 役員賠償責任保険の加入及び法人の保険料負担について 臨時評議員会の招集について

評議員会 令和6年度開催実績

	● 開催日	● 場 所	● 議 題
第66回評議員会	令和6年 6月27日(木)	大阪新阪急ホテル(大阪 市北区)	令和5年度事業報告及び収支決算書類の承認について 評議員の選任について
第67回評議員会 (決議の省略)	令和6年 8月15日(木)	——	特定資産の取崩しについて
第68回評議員会 (決議の省略)	令和7年 3月31日(月)	——	特定資産の取崩しについて

第6回アドバイザリー会議 中期計画の検証のため、有識者による第6回アドバイザリー会議を開催しました。開催の経緯は、次のとおり。

日時：令和6年7月22日(月) 午後2時～4時

場所：ホテルグランヴィア京都

アドバイザーメンバー：

後藤祐一 ((株) 日商社代表取締役社長兼CEO)

田中 充 ((公財) 古都飛鳥保存財団常務理事)

湯本貴和 (京都大学名誉教授)

令和6年度決算

貸借対照表 令和7年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
現金預金	96,758,875	未払金	16,063,732
未収収益	78,968,935	預り金	710,377
流動資産合計	175,727,810	賞与引当金	2,989,463
2.固定資産		流動負債合計	19,763,572
(1)基本財産		2.固定負債	
基本財産定期預金	860,000,000	退職給付引当金	22,974,500
基本財産投資有価証券	29,400,000	固定負債合計	22,974,500
基本財産普通預金	600,000	負債合計	42,738,072
基本財産合計	890,000,000	III 正味財産の部	
(2)特定資産		1.指定正味財産	
記念基金	9,475,144,200	寄付金	10,000,000,000
退職給付引当資産	22,974,500	基本財産運用益	90,000,000
国際園芸博覧会出展事業積立資産	30,000,000	特定資産運用益	800,000,000
法人運営安定化資産	20,000,000	特定資産評価差額金等	△524,855,800
大阪・関西万博協力事業積立資産	0	指定正味財産合計	10,365,144,200
特定資産合計	9,548,118,700	(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)
(3)その他固定資産		(うち特定資産への充当額)	(9,475,144,200)
什器備品	8	2.一般正味財産	205,964,246
その他固定資産合計	8	(うち基本財産への充当額)	(0)
固定資産合計	10,438,118,708	(うち特定資産への充当額)	(50,000,000)
資産合計	10,613,846,518	正味財産合計	10,571,108,446
		負債及び正味財産合計	10,613,846,518

正味財産増減計算書 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部		職員厚生費	120,711
1. 経常増減の部		会議費	246,475
(1) 経常収益		旅費交通費	1,624,780
基本財産運用益	4,240,949	通信運搬費	317,699
基本財産受取利息	4,240,949	消耗什器備品費	18,578
特定資産運用益	250,528,961	消耗品費	450,591
記念基金受取利息	250,528,961	修繕費	59,400
受取寄付金	3,000,000	光熱水料費	1,501,973
受取寄付金	3,000,000	役務費	34,815
経常収益計	257,769,910	委託費	2,519,641
(2) 経常費用		賃借料	1,405,706
事業費	212,468,542	使用料	533,525
役員報酬	8,524,726	保険料	91,488
給与手当	36,378,931	諸謝金	107,700
法定福利費	6,173,076	租税公課	14,184
退職給付費用	2,132,981	支払負担金・会費	457,070
賃金	2,238,307	支払手数料	126,313
職員厚生費	131,242	雑費	10,950
会議費	4,021,689	経常費用計	266,890,293
旅費交通費	5,843,052	当期経常増減額	△9,120,383
通信運搬費	1,622,125	2. 経常外増減の部	
広告費	1,135,998	(1) 経常外収益	
消耗什器備品費	43,349	経常外収益計	0
消耗品費	2,418,584	(2) 経常外費用	
修繕費	138,600	経常外費用計	0
印刷製本費	1,040,680	当期経常外増減額	0
光熱水料費	3,504,604	当期一般正味財産増減額	△9,120,383
役務費	83,075	一般正味財産期首残高	215,084,629
委託費	42,757,495	一般正味財産期末残高	205,964,246
賃借料	3,382,857	II 指定正味財産増減の部	
使用料	2,842,840	受取寄付金	3,000,000
保険料	213,472	受取寄付金	3,000,000
諸謝金	8,512,587	基本財産運用益	4,240,949
租税公課	44,096	基本財産受取利息	4,240,949
支払負担金・会費	28,929,148	特定資産運用益	250,528,961
支払助成金	9,320,681	記念基金受取利息	250,528,961
支払手数料	330,720	特定資産評価損益等	△316,552,296
顕彰賞金	40,110,000	記念基金投資有価証券評価損益等	△316,552,296
雑費	593,627	一般正味財産への振替	△257,769,910
管理費	54,421,751	一般正味財産への振替	△257,769,910
役員報酬	3,653,454	当期指定正味財産増減額	△316,552,296
給与手当	32,940,969	指定正味財産期首残高	10,681,696,496
法定福利費	6,223,910	指定正味財産期末残高	10,365,144,200
退職給付費用	1,961,819	III 正味財産期末残高	10,571,108,446

財団の概要(令和7年3月31日現在)

名 称	公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

評議員 令和7年3月31日現在(50音順)

評議員	小栗 邦夫	(公財)日本特産農作物種苗協会理事長
評議員	金田 章裕	(大)京都大学名誉教授
評議員	佐藤友美子	(学)追手門学院大学地域創造学部教授
評議員	高橋 徹	大阪市副市長
評議員	竹歳 誠	元国土交通事務次官
評議員	鳥井 信吾	大阪商工会議所会頭
評議員	土井 元章	(大)京都大学名誉教授
評議員	根本 拓也	(特)日本放送協会理事・大阪放送局長
評議員	羽田 光一	(公社)日本家庭園芸普及協会顧問
評議員	正木 啓子	(公社)土木学会名誉会員
評議員	増田 昇	(大)大阪府立大学名誉教授
評議員	松下 正幸	(公財)松下幸之助記念志財団理事長
評議員	森岡 武一	大阪府副知事

役員 令和7年3月31日現在(50音順)

会長	御手洗富士夫	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角 和夫	阪急阪神ホールディングス(株)前代表取締役会長グループCEO
専務理事	片山 博昭	常勤
理事	柴田 道夫	(大)東京大学名誉教授
理事	武内 和彦	(公財)地球環境戦略研究機関理事長
理事	本間 和枝	(公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本 幸裕	(大)京都大学名誉教授
理事	和田 新也	(一社)日本造園建設業協会会長
監事	北山 諒一	公認会計士
監事	崎 元利樹	(公財)関西・大阪21世紀協会理事長

顧問 令和7年3月31日現在(50音順)

顧問	今井 敬	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
顧問	牧野 徹	アイング(株)最高顧問
顧問	三井 康壽	政策研究大学院大学特別講師

参与 令和7年3月31日現在(50音順)

参与	青木 保之	(学)東洋女子学園理事
参与	佐々木正峰	(独)国立科学博物館顧問
参与	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
参与	中村 桂子	JT生命誌研究館名誉館長
参与	畑 中孝晴	(一社)プリザーブドフラワー全国協議会代表理事
参与	波多野敬雄	(学)学習院名誉院長
参与	ルイ・サトウ	在仏建築家

協会事務局 (TEL : 06-6915-4500、FAX : 06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)
〈管理運営、評議員会・理事会関係、予算・決算、資産運用等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

顕彰事業

1. 2025年(第32回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2025年(第32回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

令和7年度は、2025年の受賞者選考及び決定に加え、2026年の選考準備を行います。2025年の受賞者は7月中旬に決定し、10月に授賞式を開催します。

2. BIEコスモス賞

博覧会国際事務局(BIE)が実施し、当協会が協力する「BIEコスモス賞」については、「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」会場において、応募総数61件の中から選考した10件についての展示と、最優秀1件に賞の授与を行います。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」について、推進協議会に参画し、実施します。

助成・協働事業

1. 花博自然環境助成

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究」、「活動・行催事」の助成を実施します。

2. 高校生Green Action 助成

地域における花や緑、自然保護等の活動を行う高校生の活動(部・同好会等)に対し、助成を実施します。

普及啓発事業及び国際交流事業

1. 次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」については、引き続き対面及びオンラインにより実施すると共に、協会YouTubeチャンネル「花博チャンネル」に同様の動画を配信します。

また、若年層をはじめとした年代に、コスモス国際賞受賞者の業績を波及させるため、「コスモス国際賞受賞者漫画読本」の発刊を進めます。

さらに、全国の高校生が地域の自然や生業を調査、撮影するコンテスト「全国高校生「地域の自然」甲子園」(通称:ネイチャー甲子園)を引き続き実施します。

2. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」、及び住民参画のもと創意・工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力します。

3. 普及啓発事業

花の万博開催の地元である大阪で開催される「おおさか都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力すると共に、みどりのまちづくりに貢献する美しい景観を表彰する「みどりのまちづくり賞」に参画します。

また、情報発信については、「コスモス国際賞受賞記念講演会」を開催し、情報発信に努める他、情報誌『KOSMOS』の刊行を引き続き行うと共に協会ホームページの充実を図ります。また、協会諸事業の動画や告知等の情報を、SNSに配信し、露出を図ります。

また、花の万博資料や当協会の蓄積情報のアーカイブとしてのデータベース化を引き続き進めます。

さらに、中期計画に掲げる、他団体との連携・協働の推進として、公益社団法人日本植物園協会、公益社団法人日本動物園水族館協会との共催による「自然と人間との共生フォーラム」を引き続き実施します。

4. 国際交流事業

2027年に横浜で開催される国際園芸博覧会について、情報提供を行うと共に、同博覧会協会等との共催により「人・自然・生命」シンポジウムを開催します。また、2026年に京都で開催される国際園芸学会議(IHC2026)の開催に向けて準備を進めます。

調査研究・資料収集事業

過年度助成団体等との連携や、協会事業に沿った企業のSDGsやメセナの取り組みを調査し、協働の方策を検討します。

さらに、関西の自然・文化を体験する「共生ツアー(エクスカーション)」の今後の連携について、他事例などを調査します。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<https://www.expo-cosmos.or.jp/>

表紙の写真「スズラン」

2024年(第31回)コスモス国際賞受賞者ウィリアム・サザーランド博士が森林指標
としているお好みの花です。

写真は、授賞式用のコサージュ、ブートニアとして制作したものです。